



日本カトリック海外宣教者を支援する会

巻頭言

ザンビアでの宣教生活

神言修道会 司祭 傍 島 義 雄

私は2023年3月に名古屋で司祭に叙階され、同年9月に初任命地のザンビアに到着しました。その時、すでに43歳でした。神学生の頃にガーナで2年4カ月の研修をしたことがあるので、アフリカでの生活ははじめてではありません。神言会ザンビアミッションの現在の活動場所は、小教区5つとミッションハウス、哲学生養成の家、修練院、ゲストハウスであり、終生誓願宣立会員数は20人強です。

ザンビアにある神言会の共同体をすべて訪問した後、私はザンビア北部のルアブラ州で現地語の一つであるベンバ語の学習コースに参加しました。授業にはほとんどついていけない状態でしたが、何とかベンバ語でミサをささげることができるようになりました。体調不良からの回復後、私はまずセントラル州にある小教区で6カ月ほど奉仕しました。そのうちの4カ月弱は主任司祭代行として独り暮らしをしました。英語もまだまだ片言で、ベンバ語も挨拶以外は分からない中で、人々に助けられながらの生活でした。ザンビアには、親切で平和的な人々が多いと感じます。

そして2024年10月に、私はその小教区の近くにある神言会の修練院に異動になりました。



巻頭言	1
第98回運営委員会議事録	3
宣教者からのお便り	9
ザ・メッセージ	10
こんにちは！お久しぶりです！！	12
ECHO	12
連載「海外宣教」	13
新しい支援者・事務局より	16



当時は10人の修練士（コンゴ民主共和国3、トーゴ2、ケニア1、タンザニア1、マダガスカル1、ジンバブエ1、ザンビア1）がいて、修練長（ガーナ）と会計のブラザー（インドネシア）と私（日本）で生活していました。その修練士たちは、今年2025年7月はじめに初誓願を宣立して修練院から旅立って行きました。私は自分が司祭になって養成担当者になることを想像もしていませんでしたが、9カ月間生活を共にした若者たちが初誓願を立てる姿を見ると、感慨深いものがありました。

6月の終わりには9人の新たな修練士たち（ガーナ3、トーゴ2、ケニア2、ザンビア1、マダガスカル1）を迎え、新たな共同生活が始まっています。修練院に移り住んだ当初、私はここでの滞在は6カ月程度になり、私の英語力がもう少し向上したらまたどこかの小教区に派遣されるだろうと思っていました。しかし、会計のブラザーが異動になり、私はこの7月から修練院の会計担当に任命されました。会計係として、共同体のための食料品と日用品の買い出しを担当しています。そして、私が共同体のためにした買い物の領収証と修練長が持って来る領収証をまとめて、手書きのノートとコンピューターに記録しています。様々な市場や店舗を巡りながら、思い描いていた司祭の仕事とは異なると思うこともありますが、これも宣教生活の一部なのだと前向きに考えるようにしています。現地の人々の日常生活の喜怒哀楽を垣間見ることができるし、徐々に人々と知り合い、対話することができます。

もちろん、司祭としてミサや病者の塗油、ゆるしの秘跡も行なっています。私は修練院で週日に4回、英語でのミサ司式の機会があり、日曜日にはおもに村の巡回教会でベンバ語のミサ司式の機会があります。その他、小教区の司祭が不在または多忙の際に私がミサのために呼ばれます。病人や老人を訪問して聖体を授けることも大切な奉仕です。舗装されていない凸凹の道を行くとき、そして、人々が外国人司祭である私が来るのを喜んでくれるとき、宣教師としてこの地で奉仕を続けようという決意が新たにされます。私たち宣教師を通して、主がおおいに働いてくださいますように。



2024年 待降節

2024年 洗礼式



2025年 初誓願式

子どもたち



第 97 回運営委員会議事録

日 時：2025 年 6 月 14 日（土） 13:00 ～ 14:40

場 所：フランシスコ修道会 聖ヨゼフ修道院 2 階奥教室

出 席：運営委員 11 名 欠席 2 名

議 事

I. 2024 年度活動報告

(2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日)

所在地 東京都港区六本木 4-2-39

委 員 顧問司教：山野内倫昭司教（さいたま教区司教）

会 長：村上芳隆神父（フランシスコ会司祭）

運営委員：伊藤厚志、Sr. 桐野香（マリアの宣教者フランシスコ修道会）、島上麻子、
全 相奎、諏訪なほみ、谷口美帆（イエスのカリタス修道女会）、中村文子、
Sr. 延江由美子（メデイカル・ミッション・シスターズ）、波多野真理子、
Sr. 日高和子（聖心侍女修道会）、片山恭子、山田真知子

会 議 運営委員会開催 2024 年 6 月 8 日、9 月 14 日、12 月 14 日、2025 年 3 月 8 日

諸活動

1) 広報活動

- a. 宣教地からのレポートと国内会員の声などを掲載した広報誌「きずな」を年 4 回（6 月、9 月、12 月、3 月）発行し、国内支援者と海外で働く宣教者に送付し相互の交流と宣教者の現地活動を、日本の多くの方に伝えた。ホームページも定期的に「きずな」など更新。会員外にも広く活動を告知できた。
- b. 海外宣教者のお話を聞く会
今年は援助マリア修道会の荒井祥江シスターに東ティモールのアタウロ島についてのお話を伺った。
- c. カトリック新聞に会の情報を掲載した。

2) 援助活動

- ・世界各地の宣教者から申請のあった援助について、資料を基にして実情や内容について、運営委員会で検討し、緊急性や必要性の高いものから援助を決定し実行。今年はやや援助申請が増えてきた。本年は高額の援助が多かった。

3) 宣教者への支援活動

- ・「きずな」は季刊で寄付された雑誌やカトリック新聞と共に世界約 100 ヶ所に送付。
 - ・12 月にはクリスマスカードに委員が一言を添えて宣教者全員にお送りした。
- 今ネットの世界ではあるが、宣教者の方で「きずな」をネットで読む方はそれほど多くなく日本の雑誌を手に出る方も少ない。すぐ手に取って読めるのは楽しみとの感想も多かったが、これからはネットで読む機会も増えていくと良いとも考えている。

4) その他

- ・「事務局訪問」本年度は数名の宣教者にお目にかかることが出来た。また直接送られている会報「きずな」により他の宣教者の様子がわかり、海外での交流も生まれ、さらには事務局や会員と繋がることが出来た。
- ・今年も会員の皆様から「きずな」のエコー欄でお伝えした一言を多く頂いた。宣教者と共に感謝したい。

入金件数 603 件（個人、修道会、教育関係、カトリック団体）

Ⅱ. 2024 年度決算報告

(1)入金の部

2024 年度 会計決算

海外宣教者を支援する会

（金額単位：円）

項 目	2024年度予算額	2024年度決算額	摘 要
会 費 寄 付 金 入 金	8,000,000	6,773,170	
基 金 取 崩 し	0	0	
雑 収 入	0	0	
預 け 金 利 子	0	3,373	
前 年 度 剰 余 金	10,989,705	10,989,705	
合 計	18,989,705	17,766,248	

(2)出金の部

（金額単位：円）

項 目		2024年度予算額	2024年度決算額	摘 要
援 助 費		6,500,000	5,521,062	援助費、カトリック新聞他
研 修 費		50,000	25,000	宣教者のお話会費用他
基 金 繰 入				
運 営 経 費	広 報	1,200,000	1172440	きずな4回発行、カトリック新聞広告費
	印 刷 費	450,000	341,980	コピー機リース料、維持費、封筒印刷
	通 信 費	1,350,000	1,845,341	事務所通信費、国内外きずな発送費
	事 務 用 品 費	18,000	20,661	コピー紙、文具
	維 持 管 理 費	1,675,000	1,590,518	事務所献金、電気代、人件費1人分、
	支 払 手 数 料	200,000	147,351	払い込み手数料、事務所送金手数料他
	交 通 費	150,000	132,347	事務所の交通費、ボランティア交通費
	会 議 費	20,000	20,000	委員会教室使用献金
	雑 費	20,000	22,030	パソコンハードディスク購入、ネットワーク費用、お歳暮
	備 品	225,000	417,044	PC.1台購入、PC保守費、マイクロソフト365他
	予 備 費	30,000	0	
小 計		5,338,000	5,709,712	
当 期 支 出 合 計		11,888,000	11,255,774	
次 期 剰 余 金		7,101,705	6,510,474	
合 計		18,989,705	17,766,248	

2024 年度 援 助 費

2025年3月31日現在

	国	申請者/申請内容	申請額
1	南スーダン	シスター下崎優子（イエスのカリタス修道女会）より国内難民のための食糧支援、330人分祝日に食べるためにトウモロコシの粉 10 k （\$ 6）4回分	\$ 7,920.00 (¥1,384,740) 合計
2	南スーダン	シスター下崎優子（イエスのカリタス修道女会）敷地を守る、安全のためのコンクリート塀作成費用の一部、貧しいこと、仕事が無いため敷地に侵入してくる者たちを防ぐため。数年かけて作成資金を貯める。	\$ 1,000.00
3	リマ	シスター末吉順子（イエスのカリタス修道女会）より、リマ市郊外の貧しい地域にあるイエスのカリタス修道女会運営マリア・タキ保育園の園庭の屋根に破損が見られ、改築の必要に迫られている。子どもたちの安全を考え早急に修理を要する。全額でなくても一部の可能な額でお願いしたい。改築費用には、改築手続き、材料費、人件費を含む。全額送金	\$ 17,800.00 (¥2,833,724)
4	東ティモール	東ティモール浦善孝神父（イエズス会）より日本から聖イグナチオ学院へ、購入した黒板 21 台等と上智大学から寄付された多くの図書をコンテナで移送するための運賃を申請。現在の見積もりは移送費用 ¥827,660、東ティモール概算およそ1ドル150円として \$ 1,500.00 (¥225,000) の援助申請	¥1,052,660
5	日本国内	日本国内において、海外宣教師への援助として送付したカトリック新聞、「こじか」、クリスマスカード、海外宣教師名簿などの費用。またカトリック雑誌や「ともしび」などは寄付としていただき送付できた。	¥249,938
合計			¥5,521,062

1ドル＝時期により変化

2024 年度 貸借対照表

2025 年 3 月 31 日現在
(金銭単位 円)

資産の部		負債及び剰余金の部	
郵便局振替貯金	449,898	期末剰余金	6,510,474
みずほ銀行高田馬場支店	6,058,108		
現金(円)	2,468		
合計	6,510,474	合計	6,510,474

(\$ 現金を190.00保有)

援助基金内訳

金融機関名	金額単位(円)	金額単位(\$)
ゆうちょ銀行	9,801,003	
三菱東京UFJ銀行	4,328,989	
みずほ銀行(外貨\$預金)	326	2.17
合計	14,130,318	

1\$/¥150.00

援助基金推移詳細

ゆうちょ銀行	前年度繰り越し	9,798,002	
	利息	3,001	
	小計	9,801,003	
三菱UFJ銀行	前年度繰り越し	4,326,968	
	寄付	0.00	
	利息	2,021	
	経常勘定へ	0	
	小計	4,328,989	
みずほ銀行外貨 \$ 預金	前年度繰り越し	324	2.16
	出金	0	0.00
	利息	1.50	0.01
	小計	326	2.17
合計		14,130,318	

2024 年度 会計監査報告

2024 年度会計報告を監査したところ適正であることを認めました。

2025 年 5 月 16 日

監査役 片山 恭子 

2024 年 5 月 16 日監査役 片山恭子運営委員により終了

Ⅲ. 2025 年度活動計画・予算審議

所在地 〒 106-0032 東京都港区六本木 4-2-39 フランシスコ会聖ヨゼフ修道院内

委 員 顧問司教：山野内 倫昭（さいたま教区司教：サレジオ会）

会 長：村上 芳隆（フランシスコ会）

運営委員：伊藤厚志、片山恭子、桐野 香（マリアの宣教者フランシスコ修道会）、

熊本幸子（サレジオン・シスターズ）、全 相奎、諏訪なほみ、

平 峰子（イエスのカリタス修道女会）、中村文子、延江由美子（メディカ

ル・ミッション・シスターズ）、波多野真理子、山田真知子

会 議 運営委員会 年 4 回開催（6 月、9 月、12 月、2026 年 3 月）

諸活動

1. 広報他
 - 「きずな」を年 4 回作成・発行 2900 部
 - ホームページによる広報活動
 - カトリック教会情報ハンドブックに広告掲載予定
2. 援助
 - 運営委員会で受け付けた援助申請を審議の上実行する
 - 宣教者へ「きずな」、「こじか」、「ともしび」などを送付
 - 宣教者全員へ一言を添えたクリスマスカードを送付

3. 講演会・勉強会

○国内で宣教者のお話を聞く会、委員勉強会等を開催予定。

4. その他 ○ 帰国・一時帰国された宣教者と事務局で面会、インタビュー

○ 報告書や写真、きずなの原稿を依頼

○ HP の更新

○ 事務所から「きずな」その他の海外発送活動

○ 国内の教区、教区司教、大口の教会や個人に「きずな」発送

○ ブラジルからの「オリゾンテ」カトリック誌を日本の関係者に送付

○ 「きずな」送付先や回数の見直し

2025 年度 会計予算表

(1)入金部

(金額単位: 円)

項目	2024年度決算額	2025年度予算額	摘要
会 費 寄 付 金 入 金	6,773,170	6,700,000	年齢退会が多い
基 金 取 崩 し	0	0	
雑 収 入	0	0	
預 け 金 利 子	3,373	0	
前 年 度 剰 余 金	10,989,705	1,109,516	
合 計	17,766,248	7,809,516	

(2)出金部

(金額単位: 円)

項目	2024年度決算額	2025年度予算額	摘要
援 助 費	5,521,062	2,500,000	
研 修 費	25,000	25,000	2025年度も開催予定「お話し会」
基 金 繰 入			
広 報	1,172,440	1,200,000	きずな発行他
印 刷 費	341,980	350,000	コピー機リース他、宛名印刷、
通 信 費	1,845,341	1,850,000	事務所通信費、きずな発送6回、海外発送6回
事 務 用 品 費	20,661	10,000	コピー紙、他
維 持 管 理 費	1,590,518	1,600,000	事務所献金、事務所人件費1人、電気負担額他
支 払 手 数 料	147,351	150,000	払い込み票手数料、送金手数料
会 議 費	20,000	20,000	運営委員会部屋使用献金
備 品	417,044	90,000	不調メインPCの調整
予 備 費	0		
小 計	5,555,335	5,270,000	
当 期 支 出 合 計	16,656,732	7,795,000	
次 期 剰 余 金	1,109,516	14,516	
合 計	17,766,248	7,809,516	

以上、今年度の決算報告は……………審議後すべて承認された。

IV. 「きずな」 171 号について

編集者から→原稿は少なめ、事務局訪問が無く残念であった。

V. 「きずな」 172 号について

- ・ 172 号巻頭言：→未定

VI. 援助申請

◎シスター黒田小夜子（マリアの宣教者フランシスコ修道会）より

アフリカ、ブルキナファソにある Petit Helen 学校にソーラーエネルギー装置の設置費用。

理由：頻繁な停電への対応と電気代の削減対策 総額 \$ 11,000

1 \$ / ¥144.08 (¥1,584,880)

資料を基に審議をした結果・……………全員一致で承認された。

VII. その他

- ・「きずな」 171 号 業者発送 2705 通 6 月 4 日発送（3 営業日以降業者より発送）
- ・事務局 国内大口発送 6 日 47 通、今回も郵便局に持ち込み発送、次回はヤマト発送も再考
…しかし今回は会員寄付の切手により全額支払い完了
- ・事務局 海外便発送 6 日 97 通、今回船便発送業者中止変更のため郵便局に持ち込み発送
…84 通
…同じく会員寄付切手により全額支払完了
残りを発送する業者を探している最中、様々当たっているが、海外先方の電話番号が必須となる。より安い送付可能業者を探すも、見つからない場合は、送付できないことをお伝えして、ホームページの「きずな」を、参照可能な場合はそちらで見て頂く。
- ・会則の更新……………運営委員の交代により記載変更。……………承認された。
- ・援助基金について……………本年援助金不足の際は基金より 200 万円を限度に予算に組み込む。
……………承認された。
- ・Xerox のリース契約更新にあたり値上げとなるため……………Ricoh に変更を折衝中 次回報告。
- ・「宣教者のお話を聞く会」……………講演者未定。
場所はフランシスコホール予定・zoom など両方で行いたい。
- ・会員の高齢化による寄付金減少の対策として委員にも若い人を誘い（SNS 等を使用して発信する）
- ・事務局夏休みは 8 月 8 日から 15 日まで

次回の運営委員会は、2025 年 9 月 13 日 13 時～





宣教者からのお便り



東ティモール

◆ディリ◆

修道院の一部がほぼ突然に取り壊されて

聖心侍女修道会 中 村 葉 子

ご存じの通り、東ティモールは 24 年間に及ぶインドネシアの占領から解放されて、2002 年 5 月に独立を果たしました。私は 1987 年以来、この民族の自決権獲得の闘いに関わり、独立後は修道会から派遣されて、現在に至っています。

独立後のこの国の歩みは、植民地支配から解放されて独立はできたものの、平和裡に建国ができず、長年内戦などに苦しんできた国々に比べて、平和であった、と言えると思います。その理由について、国際問題専門家などがどう分析しているかは良く知りませんが、現地滞在者としての私の印象では、まず第一に海底油田や天然ガスからの収入が国の経済を支えてきたことが挙げられると思います。

国の形は、一応“民主主義”となっていますが、国民すべてが日常生活でそれを経験しているか、と言えば、答えは“No”である、と感じています。その一例を今日はお話したいと思います。

昨年 11 月のある日、栄養プログラムを実施している私たちのディリの修道院の一部が、ほとんど突然といえるほど、取り壊されました。理由はディリ市内各所で行われている道路拡

張・下水道建設工事のためでした。周辺住民の中には、それまで住んでいた家全体が壊され、もうディリに住んでいられなくなった人々もいました。これほど大規模な都市計画事業がなぜ突然昨年始まったかについては諸説あるのですが、一つは明らかに ASEAN 加盟のための必要条件を満たす、ということであったと思います。

当国の法律『土地収用法』によると、政府が市民の土地・建物を収用するに当たっては 7 つの段階を経なければならない、と規定されています。その中の一つは、住民との協議です。それが全くなされずに、多くの市民の土地・建物が収用された、ということは、それが共通善のためであり、修復・移転のための費用が政府によって補償されるとは言え、あまりにも国民を無視した政策実行である、と言わざるを得ません。



ほとんど突然に取り壊される修道院の一部

長い外国支配から解放されて独立した国として、過去の負の遺産から真に解放されて、すべての国民が人間的な生活ができる国になれるよう、祈り、微力ながら協力していきたい、と痛感する日々です。

100 フランください

マリアの宣教師フランシスコ修道会 黒田 小夜子

7月7日朝ゴミサからの帰り道、私の後ろから声をかける人がいました。振り向くと、疲れ果て痩せた青年でした。“Donez-moi 100 Fan”と言われ、私は何か不思議な雰囲気包まれて、私はお金を持っていません、100 フランで何をするの？と尋ねると“Je veux acheter Galett”と答えました。あー、あなたは空腹なのですね、でも私はお金を待っていないのです。彼は私と距離を置いて立っていました。「誰かに頼みなさい」と言っていたら、反対側を若い女性が通っていたので、“Bon jour”と言って近寄り、この青年を指して、彼はガレットを買うために私に100セファ願いましたが、私はお金を持っていません。空腹のようです、と伝えると「私が払いましょう」といった。私は「お互いに助け合わなければね」と言うと、黙ったままこの青年はその女性の後についていった。

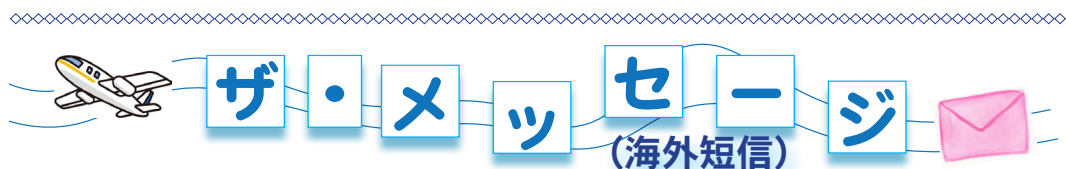
そして私はその後、彼はたった2個のガレットを食べてあとはどうするのだろう。疲れ果てやっと立っているこの青年は、この最後の願いの後にはもう乞う力もないことでしょう。私の体

中に涙がみなぎり急いで修道院に帰りました。朝食の時、このことをシスター達に話したら、「今度会ったら修道院に連れてきて話を聞きましょう」と言いました。私は胸も頭も全身が涙で詰まったような感じで食欲は全くなく、不眠の2日でヘトヘトとなりました。シスターたちは解ってくれたようで、休ませてくれました。3日目に力が湧いてきましたが、その後再びこの青年とは会うことはありませんでした。シスター達に「私が会ったあの青年はイエスだった」と言ったら、シスターたちは“Helenaがあんなに影響されたのだから…”と言い、「きっとまた会うよ、その時は修道院に連れてきてね」と言いました。

83歳で再び、40年後のブルキナファソの地を踏んで6か月が過ぎた今、Burkina Faso 青少年学校教育支援のプロジェクトを模索していたところ、『貧しさの品位を装う神の国の人間像』として、BurkinaFasoの青年が浮かび上がっていたのです。このような人に会ったと思っています。

注 “Donez- moi 100 Fan” 100 フランください：(= 25 円は小さな子供のおやつ代)

“Je veux acheter Galett” ガレットを買いたいのです；小さな油あげパン



*ペルー リマ

イエスのカリタス修道女会 末吉順子

先日、丁度「きずな」が届いたところに、メー

ルをいただきました。ありがとうございます。

郵便は、今のところ問題なく届いています。

イエスのカリタス修道女会、リマの聖女ロー

ザ準管区には、現在日本からの宣教女が、ボリビアに6名、ペルーに8名活動しています。いつも海外宣教者を支援する会からのご協力を頂き、おかげさまで私たちも充実した宣教活動ができています。教会としてのこの繋がりは、私たちにいつも支えてくださる方がいらっしゃることを感じさせ、それが力となって、宣教へと鼓舞されます。本当にありがとうございます。ご協力くださる支援者お一人お一人の上に、神様の豊かな祝福をお祈りしています。

*フィリピン マニラ

ベリス・メルセス宣教修道女会 臼井ふみよ

お祈りと「きずな」をお送りくださりありがとうございます。「きずな」No.170号、海外宣教者名簿2024、「心のともしび」No.796、No.797をボホール共同体のシスターが、マニラの共同体に送ってくださり、昨日受け取りました。私は、マニラの共同体に異動しました。

どうぞよろしくお願いいたします。神様の御恵みが豊かにありますように。

*フランス シャルトル

シャルトル聖パウロ修道女会 米島幸子

いつもお心にかけていただき、ありがとうございます。《きずな》とともにカトリック雑誌や「心のともしび」をお送りくださり、嬉しく隅々まで読んでいます。また今回は海外宣教者名簿も同封されていて、日本からこんなに大勢ミッショネールが多くの国々で活躍している事に感動し、絆を感じました。

私は定年を過ぎてからの初めてのミッションでささやかな事しかできませんが、成井大介司教様の inter gentes 「諸民族の間で」という言葉に深く共感しました。共に居る事の大切さを

大事にしましょう。と改めて思いました。

*カンボジア シェムリアップ

ショファイユの幼きイエズス修道会 谷村恵子・池尻ひとみ

帰国のさいは支援する会の事務所を訪問させていただきます。お会いできる日を楽しみにいたしております。

私たち幼きイエズス会のシスター達は事務局には長い間お世話になっています。コロナなどいろいろなことがありました。お互い乗り越えてきましたね。

これから世の中、何が起こるかわかりません、おかれた場所で地道にいきます。

お元気で……祈りの内に

*ブルキナファソ ワガドゥガー

マリアの宣教者フランシスコ修道会 黒田小夜子

私はすっかり元気になり、昨日は在ブルキナファソ日本大使館に Petite Helen 学校の増築プロジェクトの申請のために係りのシスターと行って参りました。10月に審査されます。

今では先日のことは、私の神秘体験だったと思います。見知らぬ青年、女性、と私しかいませんでしたし、話も現実的ではありません。しかしシスターたちは私の話すことをそのまま聞いて、疲れた私を休ませてくれました。温かいシスター達に囲まれて、Burkina-Faso で私に託されたミッションを果たしていく力が湧いてきました。心からの感謝とお礼をこめて

オリゾンテ 540号より (2025年8月号)

シスターテレジア大谷黎子 カーザ・ナザレで2025年5月4日帰天89歳。1935年11月28日新潟生まれ。1952年4月よりブラジルへ宣教活動と「天使幼稚園」設立等、様々な仕事を献身と尽力によりこなされてきた。

■こんにちは！■お久しぶりです!!■

事務局訪問の宣教者

2025 年 6 月 24 日 ————— 東ティモール

イエズス会



Fr. 浦 善孝

東ティモールでの教育プロジェクトに多額のご支援をいただいたので、今回の一時帰

国に合わせてそのお礼を伝えたいと思い、事務局へご挨拶に伺いました。聖イグナチオ学院中学校高校を運営していますが、創立 13 年が過ぎ教室の黒板が傷んできたのでそれらを取り換えるために日本で黒板を購入し東ティモールへコンテナで輸送する計画をたてました。同国への物資輸送は困難なので、今回は自前でコンテナを仕立てて運ぶ計画を立てました。コロナ後コンテナ運賃が高騰しており、それを援助していただきました。海外宣教者を支援したいという気持ちが本当によく伝わってきて、ありがたいと感じました。ここから感謝して、お礼もうしあげます。

2024 年 11 月 15 日 ————— チャド ライ

ショファイユの幼きイエズス修道会



Sr. 松山浩子

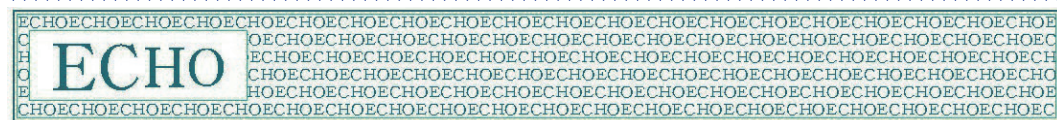
いつも心にとめて祈って頂きありがとうございます。昨年は母が帰天して急に日本へ

帰国した際に伺いました。本当は今年だったのですが、今度は 2027 年の夏です。アフリカは遊牧民、農耕民の争いで殺し合いがあり、刑務所の囚人が増加しています。刑務所の中で生まれた赤ちゃんの為に囚人同志助け合って生きています。女性の方々に編み物、小物を教えたり教材を提供しています。

ライの町では刑務所を出ても明るく声をかけてくれます。みんな貧しく苦しい、だからこそ助け合って喜んで生きています！

「きずな」の皆様の祈りに感謝！！

(掲載が大変遅れましたことをお詫び申し上げます。)



◇無関心と思われる日本人のなんと多いことでしょう。世界のこどもたちに目を向けてほしいと願っています。

(埼玉県 長山 好子)

◇感謝とともに

(千葉県 平松 裕子)

◇「きずな」でいつも世界と結ばれてほんの少しですが応援しております。現地の皆様の苦労を思います。

(長野県 山田 満喜)

◇小さな祈りを捧げております。

(熊本県 益田 典子)

◇いつも「きずな」を有難うございます。宣教者のため心よりお祈り申し上げます。

(兵庫県 マリアの宣教者フランシスコ修道会)

◇巻頭言で日本カトリック海外宣教者を支援する会の現状を知ることが出来ております。いつ

も希望と勇気をいただいております。神様の祝福とご加護をお祈りしています。

(神奈川県 今 和)

◇きずなを通して皆様のお働きに感謝申し上げます。

(東京都 篠岡 淑子)

◇きずなの記事を読むたびに、感動・感謝しております。いつもお祈りしています。ありがとうございます。

(宮崎県 重黒木 まゆみ)

◇シスターの皆様のご奉仕の上に神の豊かな祝福をお祈り申し上げます。聖年のこの年フラン

シスコ教皇様の遺言ともいえるお言葉を携え、一人でも多くの方に神の平和と希望への道をもたらして行かれますように。

(栃木県 シトー会那須の聖母修道院(トラビスト))

◇支援が必要な国々で宣教師として活動しているシスター、神父様の上に神さまの祝福が豊かにありますよう祈っております。

(東京都 服部 英子)

◇いつも「きずな」誌をお送りくださり、ありがとうございます

(愛知県 平澤 忠雄)

連載

「海外宣教」

希望に満ちた、兄弟愛の響きを受け取りながら

マリオ 山野内 倫 昭 さいたま教区司教

最近、「日伯司牧協会 (PANIB)」が月刊で発行する、『オリゾンチ (HORIZONTE)』誌の539号 (2025年7月) と540号 (2025年8月) を受け取りました。

わたしは、1976年1月にサレジオ修道会で初誓願を立てたのち、アルゼンチンのコルドバで長期の養成を受け、1984年12月に司祭叙階を受けました。ローマでの3カ月間の短期研修を終えた後、初めて日本を訪れ、まるで「浦島太郎」の物語のように、日本が劇的に変化した様子を実感しました。たとえば、東京から九州まで新幹線に乗った時の速度は、大砲の弾のように速かったのです。4週間後、再びローマを経由してアルゼンチンに戻りました。アルゼンチンに移住した若かりし両親と4人の弟妹とともに日本を離れてから、23年が経過していました。

しかし、長い年月のあとに日本に戻った日系人は、わたし一人ではありませんでした。1990年代以降、より良い生活を求めて日本に戻った人は非常に多く、失望して戻った人もいましたが、多くは今でも日本に残り、ここでの未来がより良いと信じていると思います。

そして、司祭として叙階されたばかりのわたしは、ラテンアメリカの解放神学が主導する民衆運動に深く関与しました。レオナルド・ボフの数々の著作やカルロス・メステルの聖書に関する注解書など、いくつかの本を既に読んでいました。コルドバ市の周縁地域の住民との司牧活動において、とくに週末にサレジオ会の神学生グループとともに活動する中で、この二人の

神学者が共有する経験と考察は、わたしが人々との接触を通じて感じ取っていたものと一致していることを確認しました。

そして、神父としての修道生活を送るべき道を探していたそのとき、コンベンツアル修道会のレオナルド・マツオ神父が、長年ブエノスアイレスに住み、アルゼンチンの日系人諸グループと活動してきた林修道女とともに訪ねてきました。マツオ神父は、航空券代を負担して、次のPANIBの会議に参加するようわたしを招待しました。この会議は1986年7月、ロンドリーナで開催されました。ラテンアメリカ大陸最大の国であるブラジル、とりわけその神学的な司牧活動を知ることができたことは、わたしにとって非常に特別な喜びでした。ロンドリーナで過ごした日々、とくに「聖書と大地」をテーマに考えたことは、わたしに非常に大きな衝撃を与え、聖書とブラジルおよびラテンアメリカにおける内部移民の運動理解に、消えることのない痕跡を残しました。わたしや、ブラジルに定住する数多くの日系人と同じように、イエスも移住者であり、難民でした。

それ以来、10年以上にわたり『オリゾンチ』誌を購読してきました。おそらく70号以降のものだと思います。雑誌の半分はポルトガル語で、もう半分は日本語で書かれています。その内容は現実の出来事から得られた生々しい経験や考察であり、読むたびに執筆者たちの思いに共感することができます。しかし、その後何年もこの雑誌を受け取ることができず、PANIBや宣教師たちとの連絡も途絶えてしまいました。

しかし、2023年11月、スカラブリニ宣教会の総長、レオニール・キアレッロ神父から、同会の総会準備に参加するよう招待を受けたことで、再会が実現しました。総会のテーマは「現在の状況における難民と移住者」でした。このスカラブリニ会総会の事前準備への参加を機に、サンパウロ管区のサレジオ会会員やイエスのカリタス修道女会のシスターたち、そして日本で20年以上過ごしたのち、サンパウロに帰国したいいくつかの家族と再会することができました。

また、レオナルド・マツオ神父と電話で話し、彼はわたしにブラジルを再訪するよう強く勧めてきました。わたしだけでなく、日本の他の司教たちとも一緒に訪問するよう求めたのです。なぜなら、ブラジルには5代目以上に遡る、多くの日系人の子孫がおり、司教の訪問は彼らに喜びと希望をもたらすからです。

教皇フランシスコの遺志「わたしたちには新たな聖霊降臨が必要」(アカミネ大司教による)

以上の長い導入のあと、『オリゾンチ』誌第539号(2025年7月)に掲載された記事に焦点

を当てたいと思います。その中の記事で、ブラジル・ベレン教区のジュリオ・エンジ・アカミネ協働大司教が、教皇フランシスコが残した遺産について証言しています。アカミネ大司教は今年2月に日本を訪問し、わたしはサレジオ会の調布教会（東京）で、彼と他の司教や神父たちと会うことができました。彼らは、25年間横浜教区で働いていた比嘉エバリスト神父（サレジオ修道会）の案内で、祖先たちの地である沖縄も訪問しました。

教皇フランシスコのことばと表現を用いて、アカミネ大司教は力強く次のように述べています。

「わたしたちには、新たな聖霊降臨が必要です。人々、家族、共同体、そして諸民族に出会い、キリスト・イエスとの出会いの恵みを伝え、分かち合うために、外へと出向いていく必要があります。新たな聖霊降臨はすでに始まっています。この新たな聖霊降臨のしるしとして、教皇ベネディクト十六世の退位と教皇フランシスコの選出を挙げることができます。二つの出来事はわたしたちを驚かせました。誰もそのようなことが起こると思っていませんでした。しかし、実際そうになりました。わたしたちは神に、これらの驚きを感謝し、聖霊が今ここで、わたしたちに伝えようとしていることに注意深く耳を傾けるべきです」

ブラジルにおける教会の歴史を新たなまなざしで振り返り、この教会は、第二バチカン公会議の指針を受け入れ、実践することにもっとも尽力した教会であり、現代において「いかに福音宣教を行うべきか」を創造的に探求した教会であったと述べています。彼は、「新しい福音宣教」はキリスト教のもっとも本質的で真摯な部分、すなわちイエスとの人格的な出会いに戻らなければならないと強調しています。この出会いがなければ、福音宣教はありません。そのため、教皇フランシスコのことばを引用し、教会は福音宣教の喜びから生まれ、同時に「酸っぱい顔」（悲しみや悲観主義）で福音宣教を行うことは不可能だと指摘しています。教会はすべての人に門戸を開くべきであり、とりわけ、壁の内側の安全地帯から出て、すべての人々と出会うべきです。そのためには、具体的ないつくしみの姿勢と行為の重要性を再発見する必要があります。いつくしみがなければ、福音宣教は不可能だからです。そして、新しい福音宣教のあけぼのであるマリアを黙想し、それに倣うよう呼びかけています。

『オリゾンチ』誌の編集チームの皆さん、ブラジルをはじめとする多くの兄弟姉妹の証言を収集し続けてくださり、心より感謝申し上げます。また、この手紙を共有してくださったアカミネ大司教のためにも、祈りを絶やさぬようお願いします。

新しい支援者

個人 2名

松本 和子（東京都中野区）

ジョンソン 田口 伸子（熊本県熊本市）

事務局より

- ◎日本では思いのほか猛暑が続く今年の夏、すでに災害と向き合っている方、水が足りない地域など静かに生活することもままならない方々が、一刻も早く普段通りの生活を取り戻せますようにお祈りします。
- ◎海外ではいつものように宣教者の方々は挑戦の生活が続いていると思いますが、支援する会では役員一同皆様の為にお祈りします。
- ◎郵便局で交換の上、発送費用として大切に使われますので、ご家庭で眠っている未使用のはがきや切手を是非お送りください。お待ちしております。
- ◎「きずな」に掲載する宣教者の方々の報告、写真、原稿をお待ちしております。
- ◎「きずな」をご希望の方は一部無料でお送り出来ますので、ご一報ください。
- ◎またホームページも公開しておりますので、こちらでもお読みいただけます。送付をご希望でない方もお知らせください。

編集後記

◇戦後 80 年、8 月 9 日長崎の浦上天主堂にある鐘樓の左側に鐘が付き大小二つの鐘が鳴り響きました。この鐘は U.S.A のカトリック信徒の呼び掛けで信徒の募金によって実現したとの事です。日本では 40 度越えの猛暑が各地で記録され、暑い夏を過ごしています。ウクライナ戦争、ガザ紛争も少しづつ終息に向かう報道がされていますが、まだまだ先は長く厳しいようです。世界には、メディアで報道されていない国々での紛争がたくさんありますが、1 日も早く対話による終息を願い祈りたいと思います。（い）

発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木 4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112
日本カトリック海外宣教者を支援する会

・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会